

知的障害特別支援学校美術科における対話型鑑賞の実践的研究 ー深い学びにつながる授業モデルの検討ー

【目的】 知的障害特別支援学校における「主体的・対話的で深い学び」に基づく鑑賞の授業モデルの検討

【研究方法】

1. 対 象

大阪教育大学附属特別支援学校中学部美術科の授業（生徒9名）

2. 内 容

対話型鑑賞を全4回実施／鑑賞作品は3作品

3. 手続き

1) 対話型鑑賞における生徒の発言の分類

逐語録を作成し、花田（2023）が示す「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の3観点を基に定義した対話型鑑賞（表1）での生徒の発言の定義に従って、対話型鑑賞における生徒の発言を4つに分類した（図1）。

2) 対話型鑑賞における「深い学びの発言」の現状分析

逐語録を基に、対話型鑑賞全4回における①生徒の発言数と生徒以外の発言数、深い学びの発言数の割合の比較、②生徒の全発言数における深い学びの発言数の割合、③深い学びの発言をしている生徒ごとの発言数の割合、④生徒ごとの4分類での発言数を分析した。



フィンセント・ファン・ゴッホ
《3本のひまわり》



前田泰宏《山陰海岸》



岡本太郎《太陽の塔》

表1 対話型鑑賞における「主体的・対話的で深い学び」の発言の定義（花田，2023）

文部科学省の定義		対話型鑑賞での定義	
主体的な学び	学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげている。	主体的な学びの発言	作品に興味や関心を持って、自分の見方・感じ方を形成し、話している。
対話的な学び	子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深めている。	対話的な学びの発言	教員や友だちとの対話を通じ、自分の見方・感じ方を形成し、話している。
深い学び	習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かっている。	深い学びの発言	対話型鑑賞の過程の中で、美術科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識や他者の発言を関連付けて、新たな自分の見方・感じ方を形成したり、形成しようとしていたりして、話している。

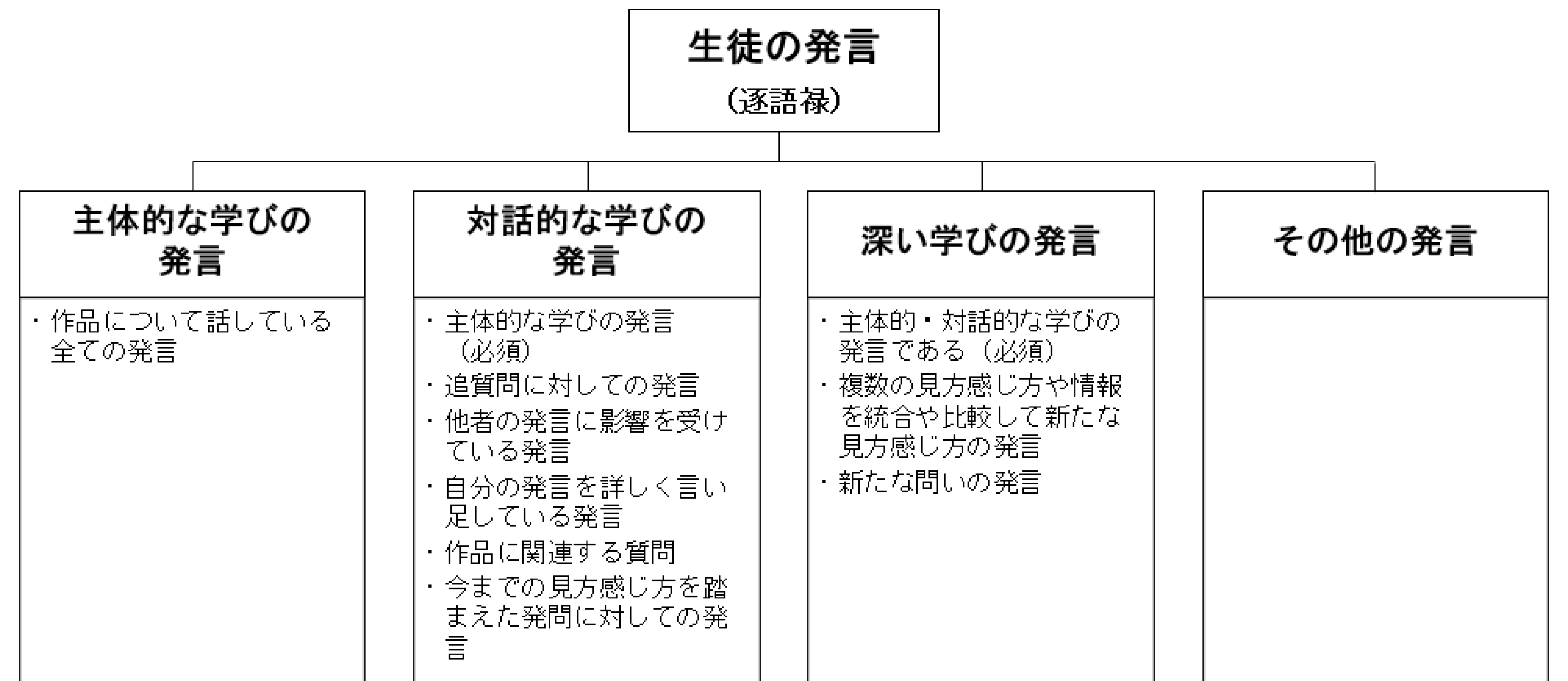


図1 対話型鑑賞における生徒の発言の4分類（花田，2024）

【結 果】

1. 対話型鑑賞における生徒の発言の分類

対話型鑑賞全4回における生徒の発言を分類すると、対話型鑑賞での生徒の発言では、「主体的な学びの発言」と「対話的な学びの発言」で全体の発言数の60%以上を占めていた。ただし、1回目の鑑賞では「対話的な学びの発言」が全体の発言数の55%であるとともに、「深い学びの発言」が全体の発言数の35%と他と比べて割合が高い結果となった（図2）。

2. 対話型鑑賞における「深い学びの発言」の現状分析

- ①対話型鑑賞全4回における全ての発言数に対する生徒の発言と生徒以外の発言、生徒の深い学びの発言の割合を比較すると、1回目のみが生徒の発言数が生徒以外の発言数を上回り、深い学びの発言が全発言数において17%を占める結果となった（図3）。
- ②対話型鑑賞全4回における生徒の全発言数の深い学びの発言数の割合は、生徒の発言数が生徒以外の発言数を上回った1回目の割合が他と比べて高くなっていた（図4）。
- ③実施した4回の対話型鑑賞における深い学びの発言者を分析すると、特定の生徒が深い学びの発言をしていることと、深い学びの発言がなかった生徒が2名いた（図5）。
- ④実施した4回の対話型鑑賞においての生徒ごとの発言を4つに分類すると、生徒の多くは「対話的な学びの発言」が一番多かった。4回の実施で「深い学びの発言」が一番多かった1回目では、s2は「対話的な学びの発言」数より「深い学びの発言」数が多かった。

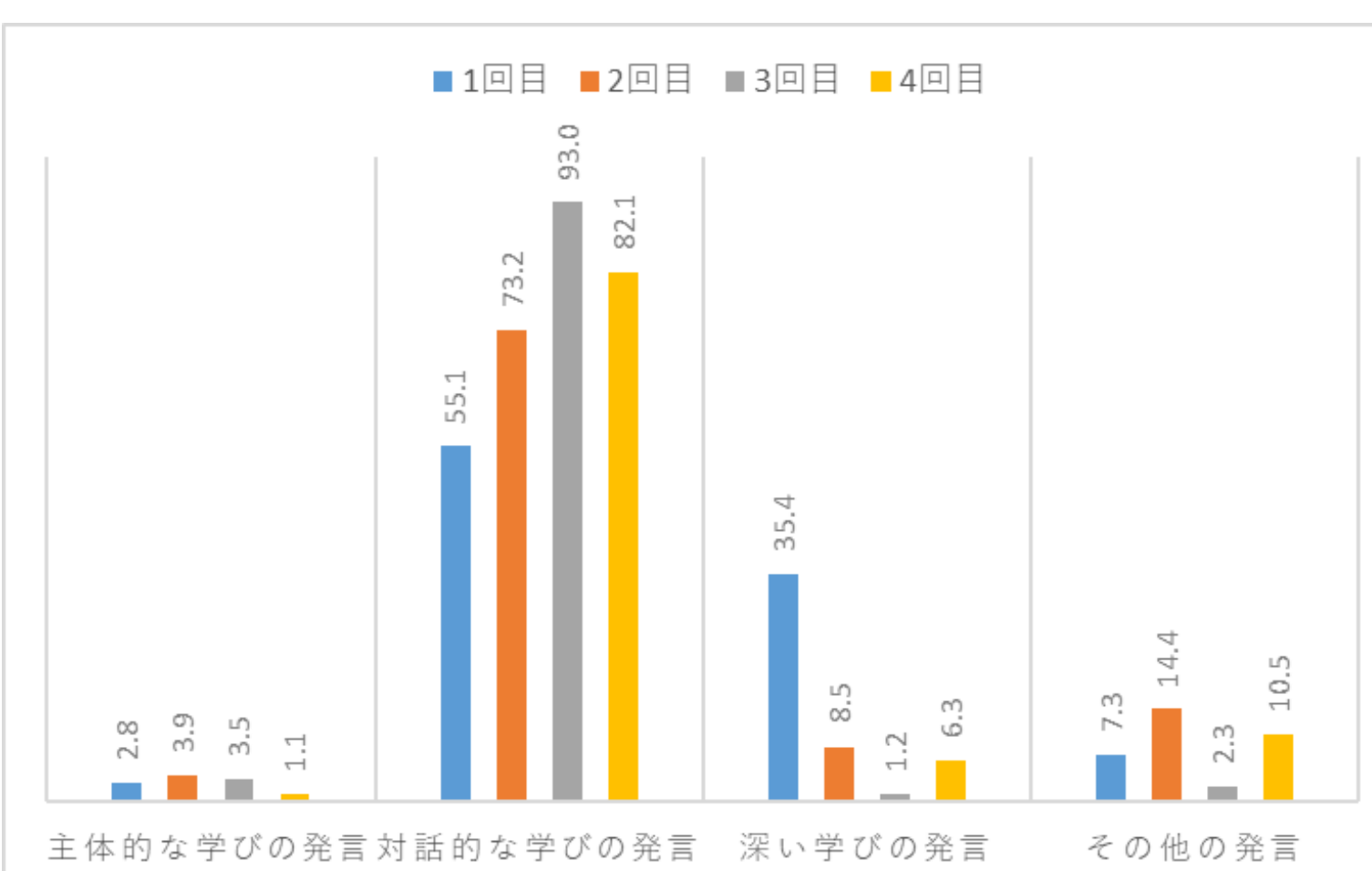


図2 対話型鑑賞全4回における生徒の発言分類ごとの割合

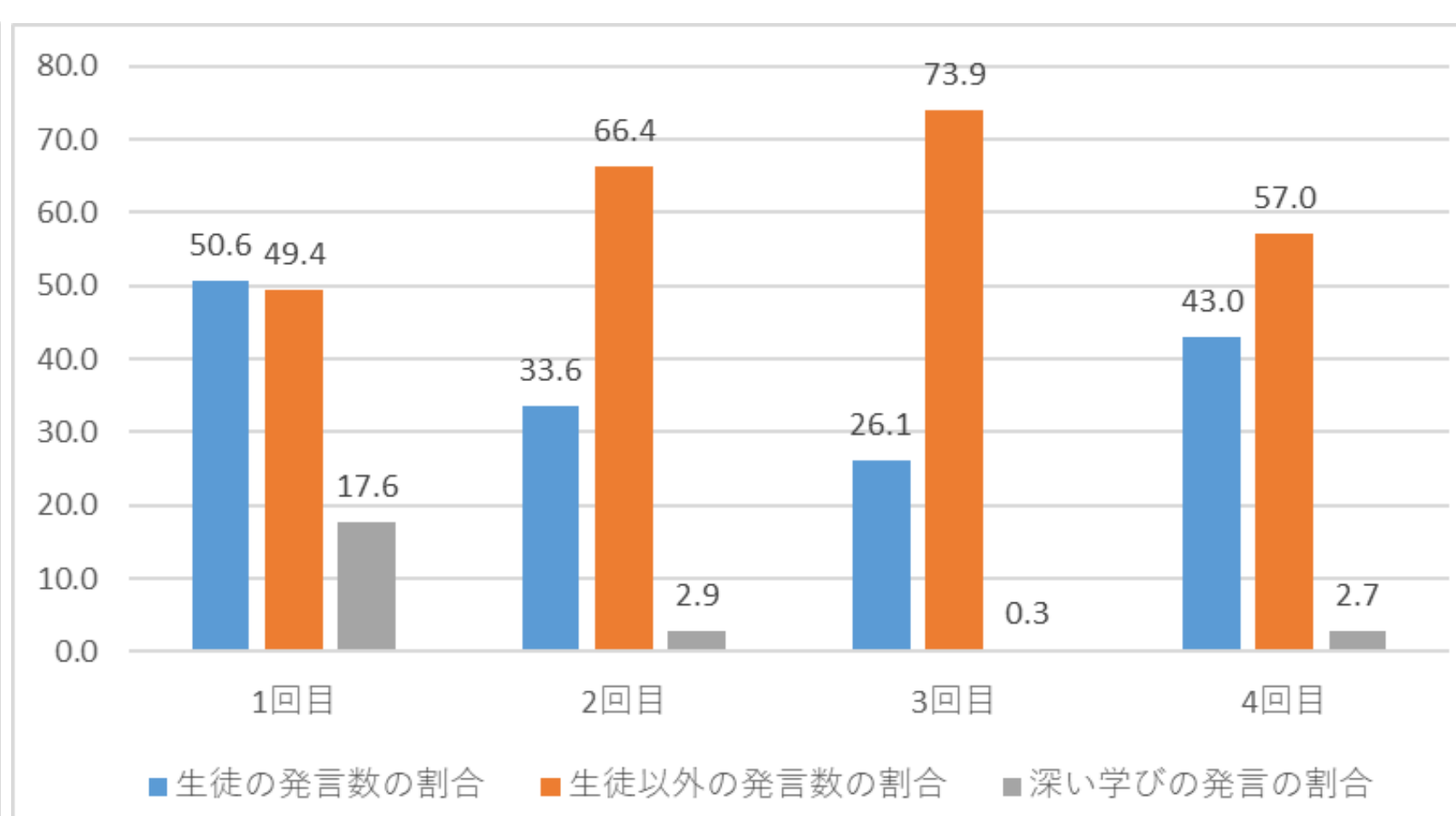


図3 生徒／生徒以外の発言数と生徒の深い学びの発言数の割合

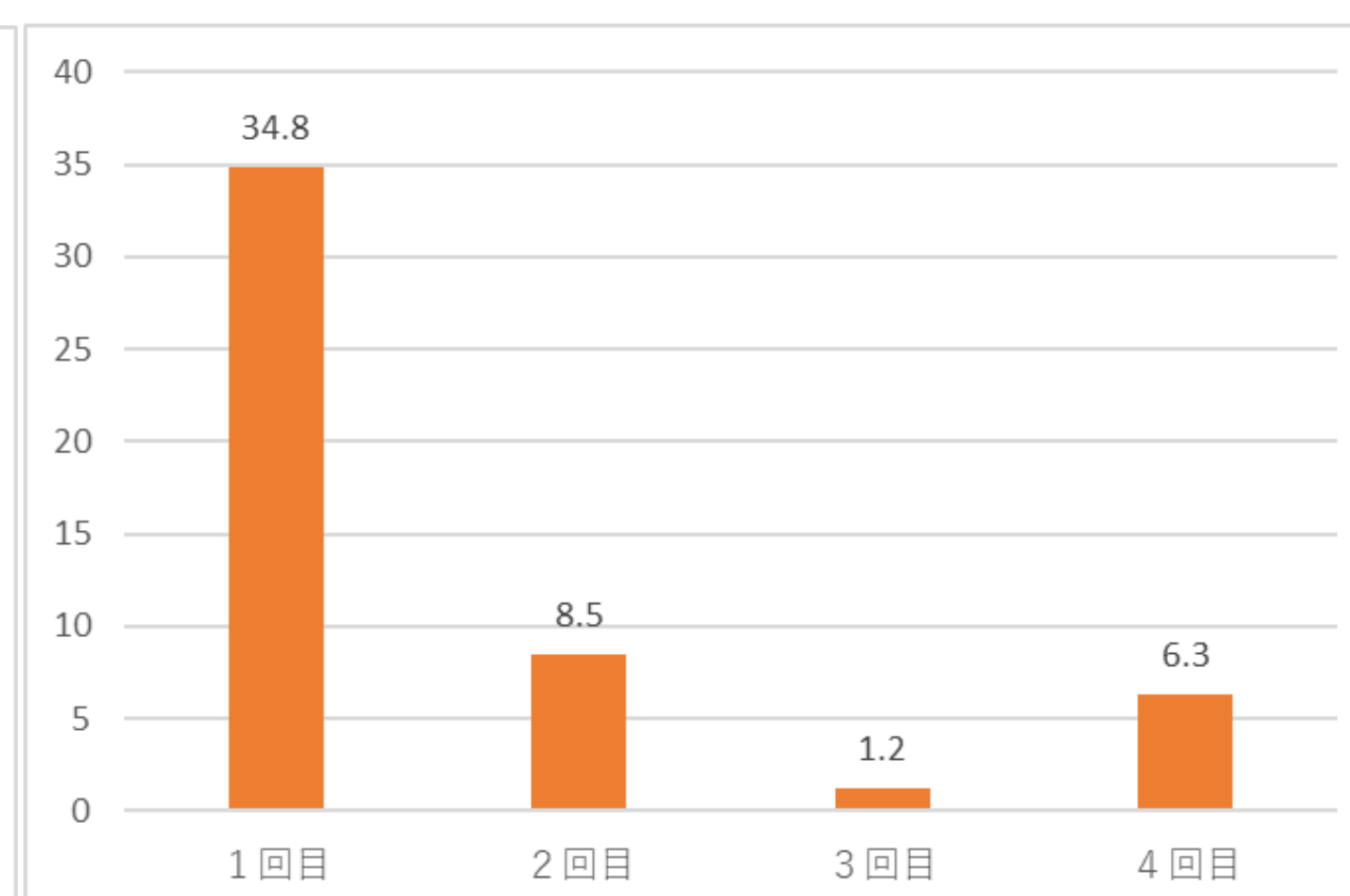


図4 生徒の全発言数における深い学びの発言数の割合

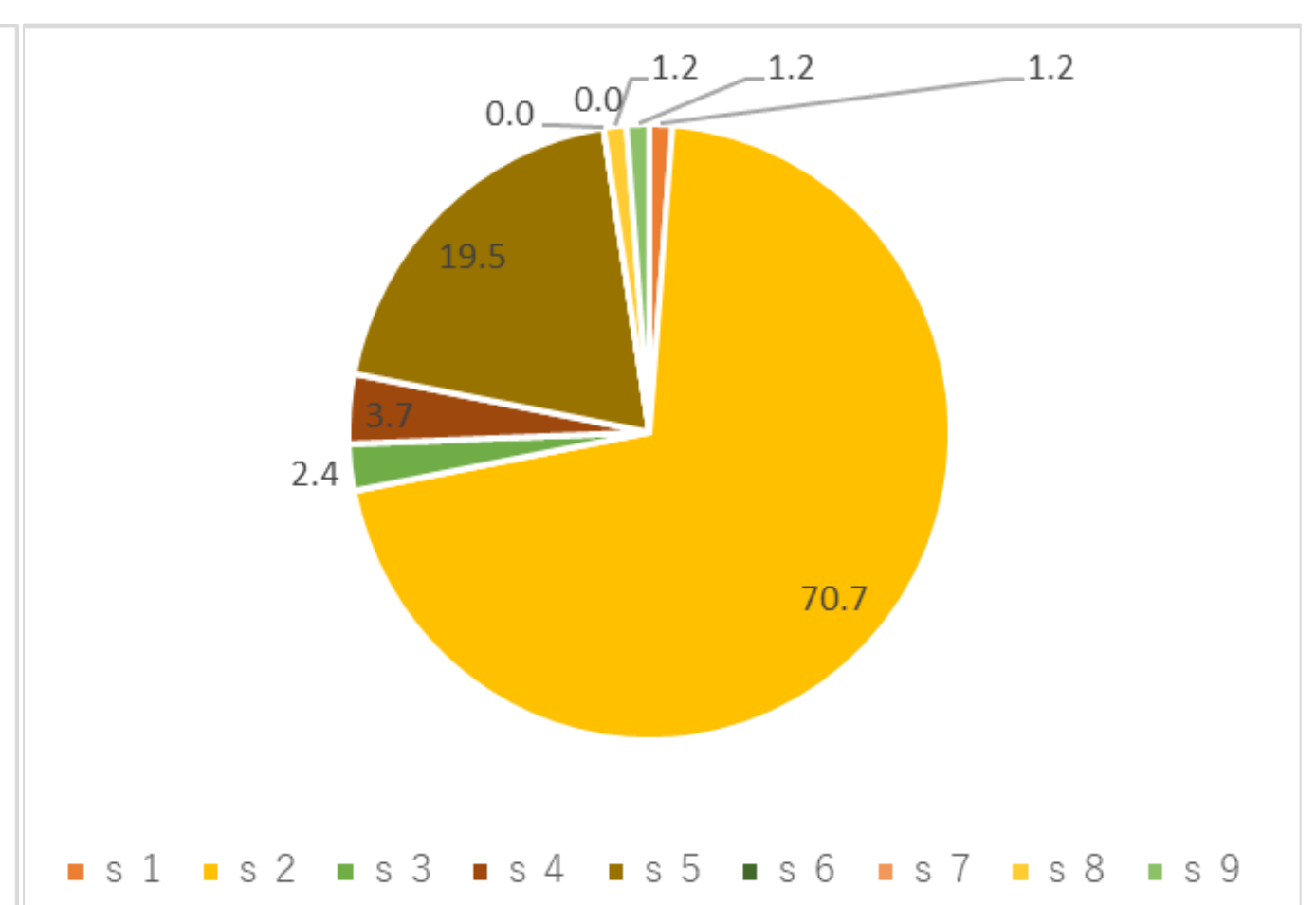


図5 深い学びの発言者ごとの発言数の割合（n=82）

【考 察】

- ①対話型鑑賞が生徒同士や教師との対話を促進し、生徒全員が鑑賞作品について発言するようになった。
- ②生徒の発言数が多いほど、深い学びの発言も増加する傾向が見られ、発言を促す環境作りが深い学びに繋がることがわかった。
- ③深い学びの発言が特定の生徒に偏る傾向があった。
→対話型鑑賞の授業モデルにおいて、発言を促す環境作りや、生徒以外の関与者の適切な配置が重要であることが示唆される。